中国の人口問題

150781118　森円香

はじめに

1）現在中国は13.82億人の人口超大国
　→人口問題注目

2）2015年まで1979～2010年の計画出産政策

3）一人っ子政策廃止後の人口問題

1章　中国人口問題の発生

1）中国人口の特色

ⅰ）人口絶対数の巨大さ（本陸本土合計で11億人越）
ⅱ）人口増加率のスピードの速さ（毎年東京ほどの人口が増加）
ⅲ）年齢構造の偏り（労働人口が全体の2/3以上）
ⅳ）人口分布のアンバランスと一人当たりの平均耕地面積の少なさ

２）1949年以降の人口動態

ｉ）1949年から1957年の第一次人口増加高潮期

←大衆の結婚ブーム

ii）1958年から1961年の間で人口増加率急低下の谷間期

←異常な自然災害、「大躍進」運動政策の失敗

iii）1962年から1971年の第二次人口増加高潮期

←出生率の跳ね上がり、死亡率の低下

iv）1971年以降の人口安定低下期

←短期間で先進国並みの水準に

３）人口倍増の要因

ｉ）清王朝後、社会の安定で死亡率は低下、出生率は増加

→多産少死の段階に移行

ⅲ）人口が多いのは重要な財産（人民共和国成立後の人口政策）の楽観的思想で人口増加政策が進行

5）戸籍制度の変遷

ⅰ）1950年初頭公安部により「都市戸籍管理暫行条例」公布で戸籍制度開始

ⅱ）1956年1月13日国務院は農村の戸籍登録、統計活動、国籍問題を公安部で統一処理決定

６）計画出産の政策展開

ｉ）毛沢東の大躍進政策失敗により計画出産再開

（1963年に2653万人の人口を1970年に3000万人へ抑制を目標）

ii）1972～1974年にかけ計画出産工作強化「晩・少・稀」の原則強調

iii）1974年12月、毛沢東が国家計画委員会で「人口はコントロールしなければならない」と発言

→人口急増の契機、計画出産キャンペーン展開

２章　一人っ子政策

１）一人っ子政策の登場

ｉ）1978年天津市の女子工員が「一人っ子提議書」を提出

ii）これを契機として1979年北京で全国計画出産弁公室主任会議を開催←一人っ子政策の基本路線を検討

iii）天津市を筆頭に上海市や四川省でも「一人っ子証」配布

iv）施行日から4か月後子女撫育費（罰金徴収制度）開始

２）各省市計画出産条例の制定

ｉ）1979年「上海市革命委員会の計画出産推進若干の規定」←晩婚、晩産、子供一人を提唱

ⅱ）規定順守の場合、様々な優遇←保育費の支給、高校まで学費免除など

→結果、中絶を強制

3）人口政策の支柱

ⅰ）一人っ子政策の奨励←「晩婚」、「晩産」、「少生」、「稀」、「優生」

ⅱ）人口抑制に加え「優生」が追加、中国の計画出産概念組み直し

ⅲ）以上の人口計画施行の裏付け法令→1982年の「中華人民共和国憲法」、1987年の「上海市婚前健康検査暫行弁法」

4）一人っ子政策の段階

ｉ）第一期は1979～84年、当初第2子について無明記

ア）81年頃特殊事情3条件を全国共通で提示

a）第一子が非遺伝性の身体障害者で労働不可の場合

b）再婚で一方に子、他方が初婚の場合

c）長年不妊で養子受理後、懐妊の場合

→いずれも第3子の出産は禁止

ⅱ）第2期1984～85年

ァ）アメリカのレーガン政府、強制中絶・女嬰児殺害で人口抑制の中国政府を批判←国連人口基金への援助停止を決定

ィ）これにより第2子出産条件の拡大・緩和へ転換

←a）男子労働の確保

b）家の継承や老人扶養の伝統思想残存の農村など

ⅲ）第3期1986年～87年

ァ）農村では政策通りの実施に困難な場合、4年出産間隔をあけ第2子の出産を許可が浸透

ィ）各種条件の緩和修正期

ⅳ）第4期1987年以降

ァ）全国的に各地区レベルの「計画出産条例」を制定・改正

←確定整備期

ィ）チベット以外の29地区の制定が完了

第3章　一人っ子政策のひずみ

1）農村と一人っ子政策

ｉ）難題が2つ発生

ア）生産責任制の普及で家族経営・小農経済の復活

イ）女児間引きで出生性比のアンバランス発生

→戸籍無記載の人口が増加

2）マイナスの影響

ｉ）少子家庭の高齢者扶養リスク

→空巣家庭の増加

ⅱ）一人っ子家庭の潜在的リスク

ア）高齢化は少子化を誘発、家族規模・構成の変化に影響

ⅲ）人口の平均年齢の上昇、労働力不足、男性過多

３）中国の人口変動

ⅰ）広領域が故、自然条件、経済発展の水準及び文化伝統・慣習の違いが発生

ⅱ）1949年の典型的な高出生高死亡の状態から1970年代後半には低出生低死亡へ

ⅲ）1980年代後半以降経済的高成長と都市の全面的開放で人口規模が次第に拡大

4）人口戦略

ⅰ）21世紀の全面的、長期的な人口戦略目標を三段階で実施

ア）第一段階→高出生率を低下させ、人口再生産の転換

イ）低出生率を安定→人口のゼロ成長

ウ）ゼロ成長後→一定の減少傾向→理想適度人口を選択

第4章　一人っ子政策後の中国

1）計画出産政策の展望

ｉ）計画出産政策の内容と方法の新方針の必要性
　ア）高出生低死亡から低出生低死亡へ変化

ⅱ）新たな問題の発生
　ア）農村部の女児間引き問題から出生性比の差、人口の高齢化、流動人口

イ）人口高齢化で生産年齢縮小
　ⅲ）これまでの伝統を融合したアジア型高齢者政策の確立が必要

2)中国の人口出生率の推移と変化

　ⅰ）出生率の低下で最初の政策目標達成
　→新たな問題の発生
　　ア）高齢者扶養問題など

ⅱ）2000年頃から計画出産のイメージ改善

→人々の健康の増進、生活の改善、困難の解決、発展の促進などの内容追加で各国から賞賛

ⅲ）計画出産の改革成功のカギを3つ提起

ア）低出生率を安定的に維持

イ）人口数、構造、分布などの問題を総合的に解決

ウ）計画出産実行のための合法的権益を保護し、人々の満足獲得

3）新政策の開始

ⅰ）2001年、「人口及び計画出産法」の見直し

→各省、自治区、中央直轄市の第2子出産を承認

ⅱ）2010年、「1人半」試行開始

→夫婦一方または両方が「一人っ子」の場合、子供2人の生育を承認

ⅲ）2015年末「一人っ子政策」を廃止、全ての夫婦に第2子出産を承認

今後の展望

1）2040～50年の中国の人口問題

→出生率の異常な低さ

ア）託児所の少なさ、不動産、教育費の高さが原因

2）出生率増加のカギ

→産児制限の廃止、少子化対策をしながら人口の増減を利用